

# グローバル社会に対応した 児童生徒への英語教育について

平成29年2月16日  
第14回教育懇談会

# 目 次

## 1 国における英語教育改革の動き

- (1) 文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」…<2>
- (2) 次期学習指導要領における英語教育の強化 …<4>

## 2 愛知県における英語教育の取組

- (1) 本県の生徒の英語力 …<6>
- (2) 本県の英語担当教員の状況 …<7>
- (3) 愛知県教育委員会「英語教育改善プラン」 …<8>
- (4) あいちグローバル人材育成事業 …<10>
- (5) 学校・地域における特色ある英語教育の取組 …<13>
- (6) 今後の新たな取組 …<15>

【参考】各資格・検定試験比較表 …<16>

# 1 国における英語教育改革の動き

# (1) 文部科学省「グローバル化に対応した英語教育 改革実施計画」(2013年(平成25年)12月 文部科学省策定)

## 【目的】

- 小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実
- 2020年(平成32年)の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、本計画に基づき、2014年度から逐次改革を推進

## 【内容】

### 1. グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方

学校区分		取組の方向
小学校	中学年	活動型・週1～2コマ程度、学級担任を中心に指導
	高学年	教科型・週3コマ程度(「モジュール授業」も活用)、専科教員の積極的活用
中学校		授業を英語で行うことを基本とする
高等学校		英語話者とある程度、流暢にやりとりができる能力を養う 授業を英語で行うとともに、言語活動を高度化(発表、討論、交渉等)

※ 小・中・高を通じて一貫した学習到達目標を設定

※ 日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実(伝統文化・歴史の重視等)

## 2. 新たな英語教育の在り方実現のための体制整備

区 分	取組の方向
小学校における指導体制強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校英語教育推進リーダーの加配措置、養成研修</li> <li>・専科教員の指導力向上</li> <li>・小学校学級担任の英語指導力向上</li> <li>・研修用映像教材等の開発・提供</li> <li>・教員養成課程・採用の改善充実</li> </ul>
中・高等学校における指導体制強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中・高等学校英語教育推進リーダーの養成</li> <li>・中・高等学校英語科教員の指導力向上</li> <li>・外部検定試験を活用し、県等ごとの教員の英語力の達成状況を定期的に検証</li> <li>※全ての英語科教員について、英検準1級、TOEFL iBT 80点程度等以上の英語力を確保</li> </ul>
外部人材の活用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語指導助手(ALT)の配置拡大、地域人材等の活用促進(ガイドラインの策定等)</li> <li>・ALT等向けの研修強化・充実</li> </ul>
指導用教材の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行実施のための教材整備</li> <li>・モジュール指導用ICT教材の開発・整備</li> </ul>



小・中・高の各段階を通じて英語教育を充実し、生徒の英語力を向上 ⇒ 外部検定試験を活用して生徒の英語力を検証、大学入試においても4技能を測定可能な英検、TOEFL等の資格・検定試験等の活用の普及・拡大

## 3. スケジュール(イメージ)

- 2014～2018年度 指導体制の整備、英語教育強化地域拠点事業・教育課程特例校による先取り実施の拡大
- 中央教育審議会での検討を経て学習指導要領を改訂し、2018年度から段階的に先行実施
- 東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせて2020年度から全面实施

## (2) 次期学習指導要領における英語教育の強化

		28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	32年度 (2020)	33年度 (2021)	34年度 (2022)	見直しの概要
学習指導要領	改訂 答申	小学校		新教材を使用し、段階的に先行実施		全面実施		<p><b>小学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学年:「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動を導入(年間35単位時間)</li> <li>・ 高学年:段階的に文字を「読むこと」「書くこと」を加え、系統性を持たせた指導を行う教科として位置付け(年間70単位時間)</li> </ul> <p><b>中学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対話的な言語活動を重視、授業を外国語で行うことを基本とする</li> <li>・ 学習した語彙・表現などを実際に活用する活動を充実</li> </ul> <p><b>高等学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を総合的に扱う科目群として「英語コミュニケーション」を設定</li> <li>・ 外国語による発信能力を高める科目群として「論理・表現」を設定 (スピーチやプレゼンテーション、ディベート、ディスカッション等)</li> </ul>	
		中学校		段階的に先行実施		全面実施			
		高等学校		段階的に先行実施		年次進形で実施			

## 2 愛知県における英語教育の取組

# (1) 本県の中学生・高校生の英語力

## ○ 国の教育振興基本計画(平成25～29年度)における目標値の達成状況(全国)

中学卒業段階に英検3級程度以上 50%に対し 平成27年度実績 36.6%(前年度34.7)  
 高校卒業段階に英検準2級～2級程度以上 50% " 34.3%( " 31.9)

○ 愛知県では、中学31.6%、高校31.3%と全国平均を下回っている。

		H25	H26	H27	H29(目標値)
中学3年生のうち 英検3級以上を取得している生徒及び相当の英語力を有すると思われる生徒の割合	全国	32.2%	34.7%	36.6%	50.0%
	愛知県	28.7%	30.1%	31.6%	H29 50%以上 (愛知県教育委員会 英語教育改善プラン・H28年度策定)
	(全国順位)	/		(第35位)	
高校3年生のうち 英検準2級以上を取得している生徒及び相当の英語力を有すると思われる生徒の割合	全国	31.0%	31.9%	34.3%	50.0%
	愛知県	21.5%	28.6%	31.3%	H29 60%以上 (愛知県教育委員会 英語教育改善プラン・H28年度策定)
	(全国順位)	/		(第31位)	

資料:文部科学省「英語教育実施状況調査」

※愛知県のデータのうちH25,H26は名古屋市を含まない



## (2) 本県の英語担当教員の状況

- 本県英語担当教員のうち、英検準一級以上等を取得している教員の割合は、中学校で34.5% (全国9位)、高等学校(普通科等)で53.5%(全国32位)。
- 発話の半分以上を英語で行っている教員は、中学校第1学年で41.9%(全国43位)、第2学年で39.8%(全国44位)、第3学年で37.9%(全国44位)、高等学校(普通科等)で49.6%(全国21位)。

※「普通科等」とは、英語教育を主とする学科以外の学科を指す。

※「英検準一級以上等」とは、英検準一級以上以外にTOEFLPBT550点以上、CBT213点以上、iBT80点以上またはTOEIC730点以上を指す。

	英語担当教員数 (c)	うち英検準一級 以上等を取得し ている教員数(d)	(d)/(c)		担当教員数 (e)	うち発話の半 分以上を英語 で行っている 教員数(f)	(f)/(e)
中学校 (順位) (全国)	1,785人 (31,015人)	615人 (9,374人)	34.5% (第9位) (30.2%)	中学1年生 (順位) (全国)	780人 (16,031人)	327人 (9,342人)	41.9% (第43位) (58.3%)
				中学2年生 (順位) (全国)	738人 (15,943人)	294人 (9,071人)	39.8% (第44位) (56.9%)
				中学3年生 (順位) (全国)	738人 (15,923人)	280人 (8,733人)	37.9% (第44位) (54.8%)
高校/普通科 (順位) (全国)	1,433人 (23,481人)	767人 (13,455人)	53.5% (第32位) (57.3%)	普通科等で コミュニケーション Iを担当 (順位) (全国)	585人 (10,518人)	290人 (5,214人)	49.6% (第21位) (49.6%)

資料: 文部科学省「英語教育実施状況調査」(平成27年度)

### (3) 愛知県教育委員会「英語教育改善プラン」

○ 文部科学省が示す目標指針を達成するため、本県の「英語教育改善プラン」を策定し、英語教育の改善を図っている。(計画期間:平成28~29年度) (⇒文科省が各都道府県に策定を要請)

#### 【中学校】

	目 標	目標指針	具体的な手立て(県教委・抜粋)
1	求められる英語力を有する教師の割合の向上	英検準1級程度等の英語力を有する中学校教員の割合 H27 34.5%(現状値) H28 45%以上 H29 50%以上	○英語教育推進リーダーによる指導力向上研修の実施 ○「特別価格による外部検定受験制度」の活用促進
2	求められる英語力を有する生徒の割合の向上	英検3級程度以上相当の英語力を有する生徒の割合 H27 31.6%(現状値) H28 45%以上 H29 50%以上	○学校独自のパフォーマンステストの実施 ○外部検定試験の受験の促進
3	CAN-DOリストの形式での学習到達目標の整備の促進	到達目標の設定、公表、達成状況の把握 H27 28.5%、4.6%、13.3%(現状値) H28 各75% H29 各100%	○先進的なCAN-DOリスト例の提供 ○中学校へのCAN-DOリストモデル案の提示 ※CAN-DOリスト:英語を使って何ができるようになるかを示したもの
4	生徒の英語による言語活動時間の割合の向上	1時間の授業で、言語活動の時間が半分以上の割合 H27 55.7%(現状値) H28 75% H29 100%	○ALTの効果的な活用 ○聞く、読む、話す、書く技能統合型の言語活動の導入 ○学校英語スピーチ大会等の実施
5	パフォーマンステストの実施状況の改善	実施回数(話す・書く) H27 5.3回(現状値) H28 5回以上 H29 5回以上	○ALTとの会話テストの導入 ○スピーチやプレゼンテーション等、発表活動の導入
6	英語担当教員の英語使用状況の改善	1時間の授業で、英語の発話が半分以上の教員の割合 H27 39.9%(現状値) H28 70% H29 80%	○英語教育推進リーダーによる指導力向上研修の実施 ○ハブスクール事業での授業改善の推進

## 【高等学校】

	目 標	目標指針	具体的な手立て(県教委・抜粋)
1	求められる英語力を有する教師の割合の向上	英検準1級程度等の英語力を有する教員の割合 H27 54%(現状値) H28 60%以上 H29 75%以上	○中央研修参加者を講師とした研修実施 ○外部検定試験受験料の補助 ○「特別価格による外部検定試験受験制度」活用の推奨
2	求められる英語力を有する生徒の割合の向上	英検準2級程度以上相当の英語力を有する生徒の割合 H27 31%(現状値) H28 45%以上 H29 60%以上	○授業改善の推進 ○外部検定試験受験の促進 ○異文化体験や海外交流の推進
3	CAN-DOリストの形式での学習到達目標の整備の促進	到達目標の設定、公表、達成状況の把握 H27 41%、9%、21% (現状値) H28 100%、50%、50% H29 全て100%	○CAN-DOリスト形式での学習到達目標の設定の推進 ○先進的な取組事例等の紹介
4	生徒の英語による言語活動時間の割合の向上	1時間の授業で、言語活動の時間が半分以上の割合 H27 37%(現状値) H28 70% H29 100%	○生徒の言語活動を中心とした授業のアイデアやノウハウの提供による授業改善の推進
5	パフォーマンステストの実施状況の改善	実施回数(話す・書く) H27 1.2~3.4回(現状値) H28 各科目とも6回以上 H29 各科目とも10回以上	○評価の工夫・改善、パフォーマンステストの更なる充実 ○ALTやビクトリア州教員等のノウハウを活用したルーブリック作成やパフォーマンス評価実施の推進
6	英語担当教員の英語使用状況の改善	授業の英語の発話が半分以上の教員の割合 H27 41%(現状値) H28 75% H29 90%	○求められる英語力を有する教師の割合の段階的向上 ○生徒のコミュニケーション能力の育成を目指した授業の更なる推進

## (4) あいちグローバル人材育成事業

### ① あいちスーパーイングリッシュハブスクール事業

県内12地区で、英語教育の拠点となる高校をハブスクールとして指定、県内小中高校へ成果を普及・還元し、英語を高いレベルで使いこなす人材を育成

- ・ ハブスクール12校に外国語指導助手を常駐配置
- ・ 英語の指導方法の研究、研修
- ・ 小中高校の連携(中高相互の授業参観、研究協議への小中高教員の参加)

【ハブスクール指定校】

地 区	ハブスクール ・連携学校数	地 区	ハブスクール ・連携学校数
名北	千種・8校	知多	常滑・16校
名南	中村・12校	西三北	豊田北・12校
尾東	瀬戸西・15校	西三南	刈谷北・12校
尾北	尾北・11校	西三東南	西尾・12校
尾中	一宮西・9校	東三南	豊橋東・10校
尾西	津島・10校	東三北	御津・11校1校舎

### ② イングリッシュキャンプ in あいち

様々な国の人たちとオールイングリッシュの共同生活を体験する合宿を開催し、英語に対する自信と興味・関心を高め、異文化体験を通して相互理解の大切さを学ぶ。

- ・ 年2回(8月前期、後期:美浜少年自然の家、12月:旭高原少年自然の家、各回4泊5日)
- ・ 小学校6年生から高等学校3年生までの児童・生徒計235名参加(28年度)

### ③ 高校生海外チャレンジ促進事業

海外短期留学、海外ボランティア活動、海外インターンシップ等の費用を助成し、生徒の異文化理解を深め、チャレンジ精神を育成

- ・ 上限25万円、20名に助成(平成27年度)

【平成27年度実績】

行き先	期間	チャレンジの内容
オーストラリア	8/8~25 (18日間)	語学研修、医療・看護に関する調査
タイ	8/1~11 (11日間)	日本文化紹介など
カナダ	8/18~29 (12日間)	語学研修、ワークライフバランスに関する調査
オーストラリア	8/4~17 (14日間)	環境調査
オーストラリア	8/3~18 (16日間)	語学研修、国際問題に関する意識に調査
カナダ	8/18~29 (12日間)	語学研修、自己肯定感に関する調査
オーストラリア	7/19~8/10 (23日間)	語学研修、野生動物等の観察

### ④ イングリッシュ・フォーラム

ハブスクールにおける1年間の取組の成果を発表し、県内の全県立高校に普及・還元

- ・ 各県立高等学校の英語教員が1名以上参加
- ・ 教員による実践報告
- ・ ハブスクールの高校生が「オールイングリッシュ」で実践を発表

### ⑤ 英語教育指導者研修

- ・ 文部科学省の「英語教育推進リーダー中央研修」の受講者8名を講師とする。
- ・ 文科省の定めるオールイングリッシュによる14時間の研修内容を、5日間で実施
- ・ 8会場で196名の英語科教員が参加(平成28年度)  
⇒ 平成32年度末までに、計1,200名が受講予定

### ⑥ オーストラリアビクトリア州との連携による教員研修

#### 【本県教員の派遣】

- ・ 夏季5週間
- ・ 6名の英語教員がビクトリア州の高校を訪問、授業参観や共同授業等を実施
- ・ 別の6名の英語教員がビクトリア州の語学学校で研修

#### 【ビクトリア州教員の受入】

- ・ 11月4週間
- ・ 6名のビクトリア州の高校の教員が本県の高校で、授業参観、共同授業等を実施

### ⑦ 「科学三昧 in あいち」

(あいち科学技術教育推進協議会 合同発表会)

- ・ スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の事業をはじめとする科学技術に関わる先進的教育活動の発表及び情報交換を行う。
- ・ 大学、研究機関等による情報発信、ワークショップ
- ・ 生徒による研究発表やポスターセッション  
→ 生徒による発表の一部は英語で実施。質疑応答が英語で行われることもある。

#### 《生徒による口頭発表(一部抜粋)》

分野	発表言語	学校名	題 目
生物	英語	県立刈谷高等学校	Conservation of Rabbitear Iris Community in the Kozutsuminishi Pond (小堤西池のカキツバタ群落の保全)
化学	英語	県立岡崎高等学校 愛知淑徳高等学校	Formation Mechanisms of Folding Intermediates of Horse Apomyoglobin in the Submillisecond time range (サブミリ秒の時間域におけるアポミオグロビンの中間体形成)
地学	日本語	県立豊橋東高等学校	東三河のジオサイト～蔵王山・笠山周辺～
物理	英語	県立明和高等学校	Regular Tetrahedron Earth (正四面体地球)
化学	英語	県立時習館高等学校	Natural Washing (身近なものを用いた洗濯洗剤の開発)
化学	英語	県立半田高等学校	SCIENCE OF NATTO (納豆で科学する)

(参考)イングリッシュキャンプ in あいちの内容

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
午前 (9:00-12:00)	11:00～ 開会式・オリエン テーション	「英語で発信！」Ⅰ (スピーチ・ディス カッション・プレゼン テーション等)	英語でスポーツ <導入編> スポーツに関する 英語表現について 学ぶ	「英語で発信！」Ⅲ (スピーチ・ディス カッション・プレゼン テーション等)	【成果発表会】 「英語で発信！」Ⅴ (スピーチ・ディス カッション・プレゼン テーション等)
昼食 (12:10-13:00)	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
休憩 (13:00-13:30)	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
午後(13:30- 17:00)	英語で自己紹介ア クティビティ パスポート・名札 会話導入編 (海外旅行疑似体 験など)	「英語で発信！」Ⅱ (スピーチ・ディス カッション・プレゼン テーション等)	英語でスポーツ <実践編> 午前中学んだ英 語表現を実践する	「英語で発信！」Ⅳ (スピーチ・ディス カッション・プレゼン テーション等)	「表彰・閉会式」 「バス乗車」 ～15:00
夕食・入浴 (17:00-19:00)	夕食・入浴	夕食・入浴	夕食・入浴	夕食・入浴	
夜 (19:00- )	交流タイム (ALT自己紹介) (部屋長会)	交流タイム (留学生自己紹介) (部屋長会)	交流タイム (参加者自己紹介) (部屋長会)	キャンプファイヤー (部屋長会)	

## (5) 学校・地域における特色ある英語教育の取組

### 【小・中学校 教育課程特例校】

#### 一宮市(全小学校)

- ・3～6年で「英語活動科」を実施。  
3・4年は総合的な学習の時間、5・6年は、外国語活動の授業時数をあてる。
- ・小・中学校の連携を図る。  
6年の後半に中学校への接続を意図した単元を導入。  
小・中学校の英語の授業を相互に参観。  
小中合同の英語主任者会や授業研究会の実施。

#### 飛島村

##### (小中一貫教育校 飛島学園飛島小学校)

- ・小学校で「英語科」を実施。  
1・2年は生活科、3・4年は総合的な学習の時間、  
5・6年は外国語活動の授業時数をあてる。
- ・独自の英語カリキュラムを作成
- ・イングリッシュタイムの設定
- ・海外派遣事業(アメリカ リオビスタ市)に特化した授業の実施

#### 岡崎市(全小学校)

- ・1～6年で「英語活動」を実施。  
1・2年は生活科、3・4年は総合的な学習の時間、  
5・6年は、外国語活動の授業時数をあてる。
- ・「岡崎市英語活動カリキュラム※」に基づき実施  
※小1から中3までの発達段階に応じて子どもに身に付けさせたい技能や態度を明確にしたもの。

#### 豊橋市(全小中学校)

- ・小学校3～6年で、「英会話」を実施。  
3・4年は総合的な学習の時間、5・6年は外国語活動の授業時数をあてる。
- ・中学校では、外国語の授業(週4時間)のうち1時間は、「英会話」の授業を実施。
- ・「豊橋市英会話カリキュラム」(小中一貫)に基づき実施。  
「英会話のできる豊橋っ子」の育成。

## 【高等学校】

### 千種高校 国際教養科の取組 (ハブスクール校)

高度な言語活動の実践(ディベート等、対象:2年生全員)

English Camp(対象:全校生徒 希望者)

海外研修(対象:全校生徒 希望者)

異文化講座(対象:1年生全員)

国際理解講演会(対象:1・2年生全員、3年生希望者)

学校設定教科の設定 ★国際教養

学校設定科目の設定 ★実用英語 ★日本語理解

★Spoken English

★地域研究 ★第二外国語

★国際英語

★Rapid Reading

★Public Speaking

### 私立学校の取組事例

○交換留学・姉妹校交流等(短期、中期、長期を含む)

相手国 オーストラリア ニュージーランド カナダ  
台湾 アメリカ

○語学研修・異文化体験・ホームステイ等  
(希望者、全員、選択など)

相手国 オーストラリア カナダ ニュージーランド  
アメリカ イングランド フィリピン  
シンガポール イタリア スコットランド  
アイルランド マレーシア

○修学旅行(希望者、学科毎など)

渡航国 オーストラリア ニュージーランド アメリカ  
カナダ 台湾 シンガポール マレーシア  
フランス

○その他

総合的な学習 学校設定科目 SGH  
外国人講師の活用など



## (6) 今後の新たな取組

- 高校生を対象とした国際大会ボランティアの養成  
～県立高等学校教育改革推進実施計画(第1期)に基づく取組～

2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2019年のラグビーワールドカップ等は、将来グローバル社会で活躍しようとする生徒にとって絶好の経験の場であることから、開催時期に大学生等となる年代の生徒を対象として、平成29年度から3年間「国際ボランティア養成講座」を開設する。

参加対象	高校生 80名程度
開催期間	3日間
講座内容	<ul style="list-style-type: none"><li>○ スポーツボランティア概論</li><li>○ オリンピック・パラリンピックなどスポーツ文化と歴史</li><li>○ 日本の文化と観光ガイド</li><li>○ 異文化理解</li><li>○ 通訳技法</li><li>○ 救急法</li><li>○ 実践コミュニケーション等</li></ul>

【参考】各資格・検定試験比較表

CEFR		英検	TOEFL			TOEIC
			PBT	CBT	iBT	
満点			677点	300点	120点	990点
C2	熟練した 言語使用者	1級	550点	213点	80点	730点
C1						
B2	自立した 言語使用者	準1級				
B1		2級				
A2	基礎段階の言 語使用者	準2級				
A1		3級				
CEFR: Common European Framework of Reference for Languages ・外国語の学習・教授・評価の ためのヨーロッパ言語共通参 照枠 ・2001年に欧州評議会が発表 し、国により、CEFRの「共通参 照レベル」が、初等教育、中等 教育を通じた目標として適用さ れたり、欧州域内の言語能力 に関する調査を実施する際に 用いられたりしている。			Paper-Based Test ・旧来から行われて いる、紙によるテスト ・現在はインターネットが 使用できない地域で 実施されている	Computer-Based Test ・PBTをコンピュー タで行うテスト ・現在は実施されて いない	Internet-Based Test ・インターネットで実施 する現在主流のテスト	Test of English for International Communication ・企業が社員評価に 利用するなど  ビジネス英語力 を判定  <16>
			国内外の大学の進学・留学に必要な英語力を判定			